

(4) 心の醸成部の取組

① 地域の伝統文化の体験活動

ア 小・中学校における清和文楽交流

小学6年生は、定期的に清和文楽保存会や清和文楽の里協会の方々から三味線、人形遣い、太夫のパートごとに指導を受けている。しかし、時間等が限られているため、昨年度から、中学1年生がこれまでの経験を生かし、小学6年生にアドバイスをする交流活動を取り入れている。この活動をとおして、小学生は中学生への憧れを抱き、その姿を手本として、よりよく文楽を演じようと意欲的に活動している。また、中学生は、清和文楽とその技術的な課題への探求を行いながら小学生に清和文楽を教え、地域の伝統文化を大切に守っていく心情を高めることができています。この交流は、お互いが清和文楽への学びを深めるとともに、清和の伝統文化を受け継いでいる地域の人々の思いや生き方を学ぶことにもつながっている。



交流の様子

イ 清和文楽所作踊りの継承

清和文楽所作踊りは、清和文楽の後継者育成につなげたいという地域の願いを込めて、平成16年に創作されたものである。この踊りの振り付けは、清和文楽人形の所作をもとに、そして歌詞や曲は、清和文楽を詠んだ「清和文楽百人一首」や地域の人々の思いをもとに創作されている。本校では、平成16年の校内文化祭で披露して以来、地域の方々の協力を得ながら、毎年、3年生が清和文楽所作踊りについての学習を行い、校内文化祭や薪文楽で披露し、2年生へ継承するのが学校の伝統となっている。3年生は、思いを込めた踊りを披露して達成感を味わい、次の学年に伝えることをとおして、学校や地域の伝統文化を受け継いでいく生き方を見つめることができています。



2年生への継承の様子

ウ 和太鼓の体験学習

小学校では、5年生が和太鼓の体験学習に取り組んでいる。もともとは、旧小峰小学校で取り組まれていたものを統合後の清和小学校で、清和太鼓として受け継いできている。その指導には、緑川地区の地域興しのために、25年ほど前に始まった緑仙太鼓を受け継いでいる地域の方に協力をいただいている。5年生は、毎年、体験学習の成果を地域の祭りや学習発表会等で披露している。この活動をとおして、児童は和太鼓の演奏を受け継ぐ人々の思いにふれながら、演奏技術や地域についての学びを深めることができています。



清和太鼓を披露する小学生

② 児童会・生徒会を中心とした取組

ア 花は咲くプロジェクト（17ページ参照）

児童会と生徒会が中心となって、矢部高等学校で育てられた花の苗を植え、小・中学校で育てる活動を行っている。育てた花は、児童・生徒が役場の支所や地域の福祉施設等へ、



苗を植える小・中学生

地域の方々への感謝の言葉を添えて届けている。また、中学校では、生徒が学校で育てた花を保育所に届け、園児と交流する時間を設けている。地元の高等学校とのつながりを意識し、児童・生徒が交流を深めて地域の方々に喜んでいただくことにより、協調性や地域に貢献する心情を育むことにつながっている。

イ 合同会議（リーダーシップの育成）

児童会・生徒会の執行部が合同会議を行い、お互いの活動に関する情報交換を行った。そして、児童会の活動に対して、中学生が具体的なアドバイスを行った。

また、小・中学校のPTAで毎年行っている合同資源回収に対する協力呼びかけの打ち合わせを行うとともに、チラシを作成して地域に配布する活動を行った。これらの取組をととして、児童会・生徒会は自分たちの活動や資源回収活動に対する充実感をもつことができた。更に、本年度は児童会・生徒会が、一人一人が楽しく安心して生活できる学校、いじめのない学校づくりを目指して、人権宣言に関する提案を行い、各学校の人権宣言づくりにつなげた。



ステージ2「ともに生きる」
(家族愛)

③ ともに生きる力づくり

地域で育ちゆく子どもたちが、命を大切にし、お互いの理解やつながりを深め、様々な人と豊かに関わり合いながら、ともに生きる力を育むことを意識した。

ア 『命を大切にする心』を育む指導プログラム』の連携

小・中学校では、児童・生徒の命を大切にする心の醸成や自他の存在を大切にする態度を育みたいと考え、9年間を見通したプログラムを編成した。プログラムの流れは、小学校でステージ1「自分の命を感じる」、ステージ2「ともに生きる」及びステージ3「命を輝かせる」について取り組み、中学校では、ステージ2「ともに生きる」を引き続き実践し、ステージ4「命を見つめる」の項目を加えて取り組むようにしている。

イ キャリア教育講演会の実施

児童・生徒が、働くことや学ぶこと、生きることや自分の将来について考えたり、コミュニケーションの大切さを理解したりすることを目的に、キャリア教育講演会を実施している。この講演会は、交流活動として位置づけており、小学5・6年生と中学生全員と一緒に講話を聞くことにしている。児童・生徒は、仕事のやりがい、コミュニケーションスキルの大切さ、協力して仕事を行うこと、困難なことに挑戦していくこと、将来設計や生き方などについての学びを深めることができている。

ウ なかまづくり

人と関わり、他者を理解しつなげる力や、自他を大切にする心を育むために、保育所では子どもの発達過程に応じた人と関わる力づくりに、小・中学校では9年間を見通した計画的な人権教育の推進に取り組んでいる。また、特別活動等での構成的グループエンカウンター等の活用、交流活動等をととして、互いの良さに気づき、つながり、支えあう意識と行動力の向上に努めている。



保育所における人と関わる力づくり